

令和7年度 生活支援体制整備事業報告

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

事務局次長兼総合相談・地域づくり推進係長

小川 史佳

ゆるやかにつながる①

「住み慣れた地域で暮らしていくために」をスローガンに、協議体が発足して9年目となりました。発足当初は中学校区単位で開催していた協議体も、参加者の状況に応じて開催方法（稲築西・東・碓井校区は行政区ごと、山田・嘉穂校区は中学校区ごと）を変えながら行ってきましたが、見守り活動の仕組みづくりや、趣味や体操等による居場所づくりなどができたのは、顔の見える関係をつくりやすい行政区で行った協議体でした。

本市においては、少子高齢化の進行はもとより、単身世帯の増加、孤独・孤立の広がり、地域のつながりの希薄化は大きな課題となっています。県内29市の中で、唯一高齢化率が40%を超えており、市内の一人暮らし高齢者が自宅で亡くなり、数か月後に発見されるという痛ましい事故も起きています。孤立死は、個人的な人生の問題のようにも思えますが、その背景には、不安定な雇用による貧困、慢性疾患や障がい、離婚、さらには家族や社会とのつながりの喪失があり、誰にでも起こりうる可能性があります。

ゆるやかにつながる②

また、近年は、毎年日本各地で大規模災害が発生しています。本会の職員が石川県珠洲市のボランティアセンターに応援派遣に行った際に、「珠洲市では高齢化率が50%を超え、過疎化に悩む地域であったが、同じ地域で長年生活してきた住民のつながりが強く、地震が発生した際もどこに誰が住んでいるかを把握できていたため、避難誘導や人命救助がスムーズにできた」「沿岸部では組内同士で、高台へ避難するように声かけができた」との話を聞くことができ、平常時のつながりが、いざという時の助け合いや行動につながるということを再認識しました。

そこで、令和7年度は、行政区長の理解が得られた行政区から協議体を開催し、見守りマップと本会が民生委員と協働で普及に取り組んでいるあんしんカードを活用し、住民同士が平常時からお互いに声かけや見守り活動が行えるような取り組みを目指すことにしました。また、行政区ごとの地域資源情報（地域のお世話役である人、公共交通機関へのアクセス、地域行事やサロン等の居場所、お店や医療機関・施設、その他の社会資源など）を整理し、生活課題の把握に心がけました。



行政区ごとに「つながり」や「見守り」をテーマに協議体を開催し、災害時や緊急時に協力し合える地域づくりを目指して地図で地域を「見える化」し、平常時からのゆるやかなつながりづくりを行いました。

行政区への働きかけ

- 令和6年11月7日（木）

稲築地区行政区長会にて「住み慣れた地域で安心して暮らすために～見守りマップの活用～」をテーマに出前講座を行い、行政区毎に協議体を開催させてもらえるよう働きかけました。

- 令和7年3月11日（火）

山田地区民生委員児童委員協議会にて「住み慣れた地域で安心して暮らすために～見守りマップの活用～」をテーマに出前講座を行い、行政区毎に協議体を開催させてもらえるよう働きかけました。

- 令和7年6月9日（月）

稲築地区民生委員児童委員協議会にて「地域福祉をサポートする身近な相談者～民生委員さんと取り組むあんしんカードの活用～」をテーマに出前講座を行い、無縁社会が広がる今だからこそ、住民同士のつながりの再構築が必要であることを共有しました。

- 令和7年9月8日（月）

碓井地区民生委員児童委員協議会にて「嘉麻市社協の事業と民生委員との関り」をテーマに出前講座を行い、行政区毎に協議体を開催させてもらえるよう働きかけました。

自分事として

- 見守りの仕組みができるまで、続けて協議体を開催しました。
- 初回の協議体では、国の方針（地域包括ケアシステムの構築により誰もが安心して暮らせる地域づくりが求められていること）や嘉麻市の実情（少子高齢化や住民同士のつながりの希薄化など）、地域には様々な困りごと（頼れる家族がいない、子育てや介護に悩んでいる、県外や外国から転入した人、自宅中心の生活をしている人、自力では避難できない人）を抱えた方が住んでいることを共有しました。
- 「自分たちのために、自分たちにできる範囲で、地域のつながりを広げていこう」と思ってもらえるように、資料を工夫したり、参加者した人が負担を感じないような声のかけ方を意識しました。
- 必ず出てくる空き家や交通政策などの要望を行政に報告する役割を担いながら、参加者のみなさんが、自分たちでできることを考える場づくりに努めました。
- 高齢者介護課や在宅介護支援センター、社協が個別相談を受けている人が、地域住民とつながっているのか、どう思われているのかなどを知ることができました。

見守りの方法を整理

- 地図作りを始める前に、見守りの方法を5つに分類して提案しました
 - ①外観から見てわかる見守り
 - ②散歩型の見守り
 - ③ご近所さん型の見守り
 - ④参加型の見守り
 - ⑤お友達型の見守り

話し合う過程で、**6つ目の見守り方法**として、行政区長や民生委員による見守りが仕組み化されました。

つながりを確認

- 地図を見ながら、ひとり暮らしの高齢者（青色）と気になる人（緑色）は、誰とつながっていて、どういう方法で見守りをしているのかを確認します。
「Aさんはご近所のBさんが声をかけているよ」…③
「Cさんは、散歩のときに話すよ」…②
- つながっていない人には、誰が、どのような方法で、見守りや声かけをするのかを決めます。
- つながっていない人の多くは関わりを苦手に行っている人なので、民生委員が見守りを行う。その際は、ご近所さんにも外観から見てわかる見守りを行ってもらい、異常があれば民生委員に連絡してもらう。
- 了解が得られた行政区では、避難行動要支援者名簿に載っている人が、日頃どのような生活をされているのかを確認します。

A行政区の協議体で①

- 協議体に参加したBさんの様子が気になったSC（生活支援コーディネーター）は、協議体後に行政区長や民生委員、お友達にBさんの様子を尋ねました。すると、物忘れが進行していることやお金の管理ができなくなっていることがわかりました。
- 公民館の役員をしているが、組費や募金の管理ができておらず、配布物も忘れてしまうため行政区としては困っているが、公民館の役員手当がなければ年金だけでは生活が苦しいだろう。仕事を取り上げるのはかわいそうとの声もありました。
- 家業を継ぎ、一人で頑張ってきたBさんは、地域の困っている人を助けてきたとの自負があり、周囲の助言を受け入れることができませんでした。

A行政区の協議体で②

- 行政区長や民生委員、友達などに協力してもらい、Bさんが安心して一人暮らしを続けられるように、医療機関や高齢者相談支援センター、福祉サービス等につなげるための作戦会議を行いました。
- まずは、専門医への受診や介護保険の申請につなぐ方法を考えました。高齢者相談支援センターを介して、見立病院に協力してもらうことができたため、A公民館にBさんと親しい方々に集ってもらい、認知症の簡易テストを行いました。
- 結果を聞いたBさんは、周囲の助言を受け、受診することに同意されたため、SCと高齢者介護課で連携し、受診をサポートしました。
- 現在は、日常生活自立支援事業を利用されていますが、債務の課題が出たため、成年後見制度の申し立てに向けて動いています。
- 行政区長や民生委員、ご近所、友達などインフォーマルも含めた連携体制を構築することができました。

協議体の開催状況について①

●なつきちゃんにし

日にち		場所	参加者数
令和6年	11月27日（水）	山野第一公民館	10人
令和7年	1月27日（月）	漆生中央公民館	12人
	2月19日（水）	漆生中央公民館	12人
	4月28日（月）	東岩崎公民館	7人
	6月18日（水）	山野第一公民館	6人
	6月30日（月）	東岩崎公民館	9人
	7月16日（水）	山野第一公民館	10人
	8月17日（日）	漆生南部公民館	16人
	9月21日（日）	漆生南部公民館	13人

協議体の開催状況について②

●なつきちゃんひがし

日にち		場所	参加者数
令和6年	10月15日（火）	銭代坊公民館	12人
	11月25日（月）	鴨生町公民館	20人
	12月9日（月）	鴨生町	14人
令和7年	1月20日（月）	鴨生町	10人
	2月27日（木）	枝坂公民館	10人
	4月15日（火）	平東公民館	15人
	5月15日（木）	平東公民館	19人

協議体の開催状況について③

●嘉麻い隊うすい

日にち		場所	参加者数
令和6年	10月16日（水）	人権啓発センターあかつき	13人
	11月15日（金）	笹原公民館	7人
	12月20日（金）	熊本公民館	14人
令和7年	1月17日（金）	昭嘉公民館	8人
	2月3日（月）	琴平団地公民館	11人
	2月13日（木）	熊本公民館	21人
	4月18日（金）	昭嘉公民館	6人
	5月23日（金）	昭嘉公民館	9人
	9月19日（金）	井土公民館	6人

協議体の開催状況について④

●あっとふるやまだ

日にち		場所	参加者数
令和6年	10月22日（火）	山田活性化センター	5人
	11月26日（火）	白馬ホール	8人
	12月11日（水）	嘉麻商工会議所 （熊ヶ畑第三行政区）	9人
令和7年	1月28日（火）	山田活性化センター	6人
	2月25日（火）	白馬ホール	5人
	4月22日（火）	長野集会所	9人
	5月21日（火）	長野集会所	8人
	6月25日（水）	長野集会所	7人
	8月26日（火）	石ヶ崎集会所	18人

協議体の開催状況について⑤

●嘉穂ますます会

日にち		場所	参加者数
令和6年	10月21日（月）	夢サイト嘉穂	6人
	11月18日（月）	千手いこいの家	7人
	12月16日（月）	下牛隈公民館	17人
令和7年	1月20日（月）	宮野公民館	9人
	2月10日（月）	千手いこいの家	7人
	4月22日（火）	具嶋公民館	11人
	5月14日（水）	具嶋公民館	9人
	6月12日（木）	中益公民館	16人
	7月10日（木）	中益公民館	11人
	9月11日（木）	中益公民館	12人
	9月22日（月）	上牛隈公民館	12人

これから目指すことは①

いざという時のセーフティネットの役割を担っていたつながりや縁（地縁・血縁・社縁）が細る社会が広がる中で、本会がフォーカスしているのは、地域における住民同士のつながりの数を増やしていくことです。

“つながろう”“支えあう地域社会を目指して”を基本理念とし、誰もが孤立することのないよう、お互いがお互いを気にかけてあうことでつながり、なおかつ誰かが困っているのであれば、見て見ぬふりをせず（ほっとかない）我が事として考え、支え合える地域社会を目指していくために、「ほっとけんばいの輪づくり運動」を推進していくことにしました。

これから目指すことは②

★気になる発言・心配なこと



- 「組に加入していない人は自分たちとは関係ない。災害が起きても知らないよ」
- 「夜間や日祝日は、市役所も社協も休み。困っている人を地域に押し付けているのでは」
- 身寄りがない認知症の高齢者が、民間の身元保証会社と契約

- 地域のみなさんの声を聞き、つながりだけでは解決できない困りごとを把握する
- 困りごとを解決するための仕組みを作る
- 行政と住民とのパイプ役を担う
- 事業化できるものは積極的に